

社外取締役

東京大学 加藤隆史

東亜合成グループの皆様こんにちは。本年度より本役職を拝命して活動をいたしております。「地球はつづく、化学でつなぐ!」という言葉が東亜合成のホームページに掲げられています。これは、東亜合成グループが地球企業として、またその社員一人一人が地球市民として、地球と環境・社会の持続性に貢献していくという意思表示と考えます。東亜合成グループの技術力・開発力は高く、ユニークな他では作れない精密な構造や高い純度の製品群を生み出して社会に貢献しています。このユニークな製品や技術の展開を、新規かつ独自の視点から考えて積極的に提案することにより、「地球はつづく」の推進の一つの軸にすることができれば、まさに持続発展社会へのさらなる貢献となります。日本の化学企業はこれまで川下の産業の細かい要求に応えるすり合わせの巧みさを一つの強さとして機能化学製品において今でもトップの分野が多いところです。素晴らしいことです。今後は、素材の本質を知る化学企業しかできない新しい概念や市場の構築・提示を自ら行っていくことも重要ではないでしょうか。そのためには環境・エネルギー・医療・社会・経済なども含めた異分野の情報を理解する力も必要と考えます。「地球はつづく」のために積極的に外へ出て行って情報を集めたり、議論したりして新しい展開を考えることもますます必要になってくるでしょう。地球の問題解決には一国のみ一企業のみだけでは対応できないのは明らかです。とはいえ一つの企業にしかできないユニークな視点・突破口もあると思います。さまざまな国内外の会議や集まりに実際に出て、素材の研究やそれと地球の持続的発展や環境科学・社会との関係がどうなっているか、世界では何が議論されているかを肌で直接感じるのも必要かと思えます。

この分野はこんな感じという先入観は禁物です。私は、現在の半導体製造の世界標準である化学増幅レジストを開発した一人のフレッシュ教授のもとに1988年から1989年まで研究員として留学していました。化学増幅レジストの最初の発表が1982年です。実はちょうど私が学生として研究を始めたころの1982年に光機能性高分子に興味を持っていろいろな専門家の先生に教を請いにいったことがあります。「フォトレジスト開発はもう大体終わったよ、加藤君」と皆さんおっしゃいました。一方、丁度そのころ、異分野の交流による全く新しい視点から化学増幅フォトレジストが開発されて出てきたわけです。従来の延長では終わったと思っても、実は延長が終わっただけで、本質がわかっていたら新しいやり方はいくらでもあるはずですよ。これは現在と未来への素材開発にも当てはまると思えます。

東亜合成グループがその高い技術力と独自の視点をもって、製品やシステム・サービスにより、地球企業の一員として歩みを進め、昨今の困難な地球的課題の解決に寄与していくことを益々強力に推進することが重要と考えています。